

—平成26年度 決算の概要—

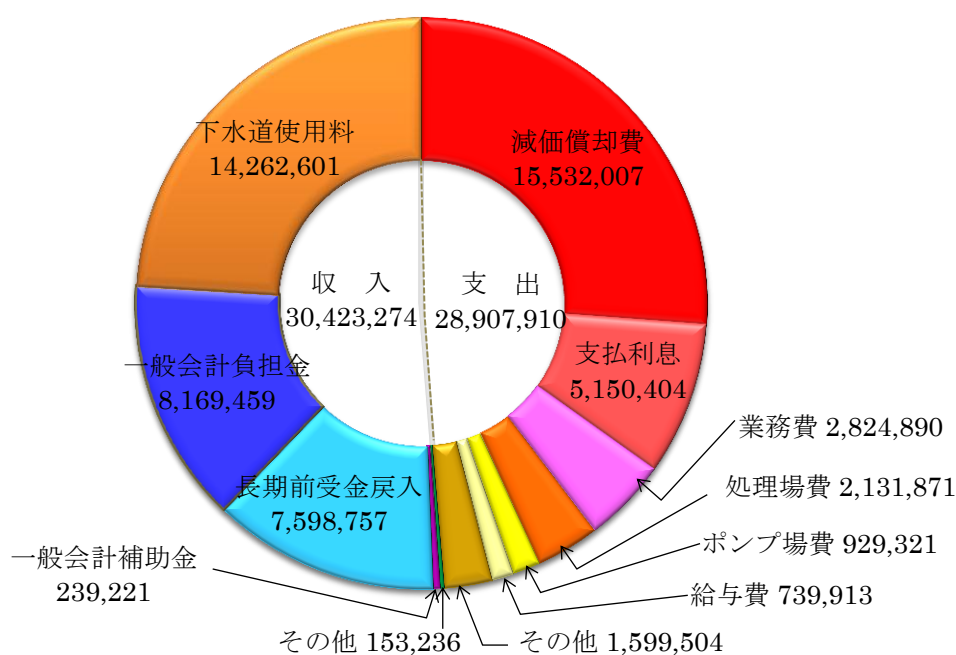
※ 下水道事業会計は、下水道使用料などを財源とした**独立採算**の会計であり、一般の会社の会計方式に似た方式を取っています。
そして内訳は、**収益的収支**と**資本的収支**に分けられます。

1. 収益的収支

※ 収益的収支とは、**下水道関係施設の維持管理などの経営**に関するお金のことです。

<収益的収支 決算>

平成26年度決算 収益的収支 (単位 千円)



※平成26年度より会計制度の変更に伴い、償却資産の取得または改良に充てるために交付された補助金等は、減価償却にあわせて「長期前受金戻入」として収益化を行うこととなりました。

<収入>

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減
	千円	千円	千円
第1款 下水道事業収益	30,641,198	30,423,274	△ 217,924
第1項 営業収益	22,805,648	22,467,960	△ 337,688
第2項 営業外収益 他	7,835,550	7,955,314	119,764

※ 営業収益とは、使用者の皆様からの**下水道使用料**や一般会計からの**負担金**などのことです。

※ 営業外収益とは、市の一般会計からの**補助金**などのことです。

<支出>

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額
	千円	千円	千円
第1款 下水道事業費用	29,569,106	28,907,910	661,196
第1項 営業費用	23,727,394	23,168,426	558,968
第2項 営業外費用 他	5,841,712	5,739,484	102,228

※ 営業費用とは、下水道関係施設の**維持管理費**と**減価償却費**(下水道管やポンプ場・処理場の設備などを取得したときの金額を、一時に全額計上するのではなく、その使用に耐える年数で割り、その額を毎年計上していく費用で、資本的収支の補てん財源の一部)などのことです。

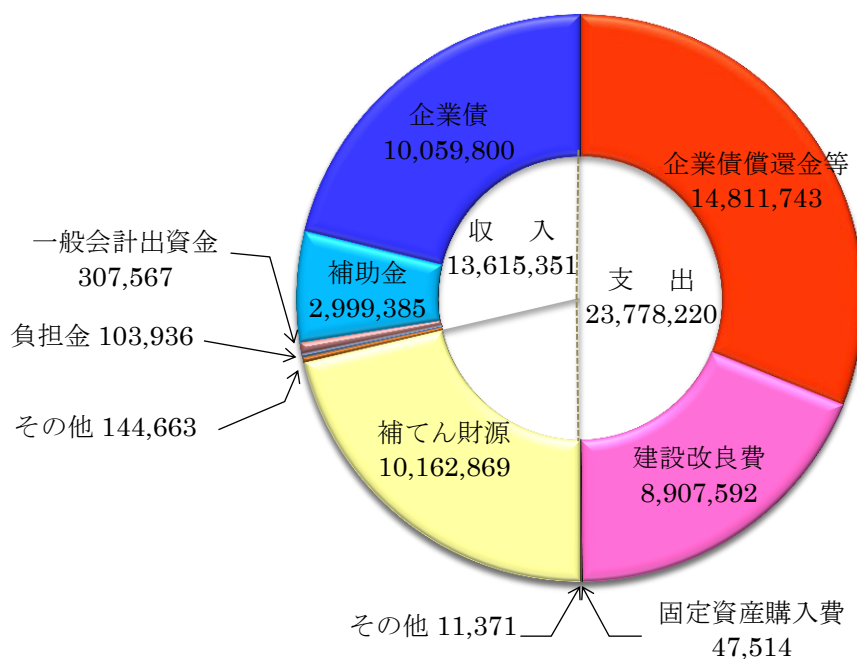
※ 営業外費用とは、企業債(建設するときに借りたお金)の**支払い利息**などのことです。

2. 資本的収支

※ 資本的収支とは、**施設の建設**に関するお金のことです。

<資本的収支 決算>

平成26年度決算 資本的収支 (単位 千円)



<収入>

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	予算額に比べ 決算額の増減
	千円	千円	千円	千円
第1款 資本的収入	18,036,376	13,615,351	3,004,240	△ 1,416,785
第1項 企業債	12,873,100	10,059,800	2,148,600	△ 664,700
第2項 他会計出資金	307,567	307,567	0	0
第3項 補助金	4,566,319	2,999,385	855,640	△ 711,294
第4項 負担金 他	289,390	248,599	0	△ 40,791

- ※ 企業債とは、**施設の建設・改良等のために借りたお金**のことです。
- ※ 他会計出資金とは、市の一般会計からの**出資金**のことです。
- ※ 補助金とは、**国などから交付されるお金**のことです。

<支出>

区 分	予 算 額	決 算 額	翌年度繰越額	不 用 額
	千円	千円	千円	千円
第1款 資本的支出	27,900,708	23,778,220	3,010,896	1,111,592
第1項 建設改良費	12,957,816	8,907,592	3,010,896	1,039,328
第2項 固定資産購入費	86,372	47,514	0	38,858
第3項 償還金 他	14,856,520	14,823,114	0	33,406

- ※ 建設改良費とは、**下水道施設**(下水道管、ポンプ場施設、処理場施設)の**建設や改良・更新にかかる費用**のことです。
- ※ 固定資産購入費とは、事業上必要な**固定資産**(土地や自動車、器具、施設の利用権など)の**購入費用**のことです。
- ※ 償還金とは、**企業債の返済金**のことです。

—平成26年度の主な事業—

下水道は、快適で衛生的な生活環境への改善、雨水排除による浸水の防除及び公共用水域の水質の保全のため、欠くことのできない重要な都市基盤施設であるとともに、地球環境に配慮した循環型社会の形成に大きな役割を担っています。

このため本市では、公共下水道を、第1次実施計画において安全で災害に強いまちづくりの推進及び快適な生活環境の整備のために必要な施設として位置づけ、整備を推進してまいりました。

この結果、平成26年度末の事業計画面積13,121ヘクタールのうち、**12,261**ヘクタールが整備済となり、整備率は**93.4**パーセントとなりました。

また、行政区域内人口962,554人に対し、整備区域内人口は936,036人となり、下水道処理人口普及率は**97.2**パーセントとなりました。このうち下水道接続人口は、前年度より4,404人増加し**929,086**人となり、接続率は**99.3**パーセントとなりました。

<主要な建設改良事業>

▼下水道管工事費 **46億2,952万円**

○春日雨水26-1工区、問屋町26-1工区、真砂26-1工区の工事 など
(※ その他、小倉町、誉田町2丁目等の污水管を6ヘクタール整備しました。)

▼ポンプ場工事費 4 億 9,437 万円

- 神明ポンプ場の電気設備の更新
- 蘇我雨水ポンプ場の耐震補強工事 など

▼処理場工事費 30 億 3,535 万円

- 南部浄化センターのガスホルダ機械設備工事
- 南部浄化センターの汚泥処理監視制御設備の更新
- 中央浄化センターの汚泥処理施設撤去工事 など

今後も、より安全で快適な都市環境を実現するため、雨水排除による浸水の防除及び公共用水域の水質の保全、衛生的な生活環境への改善等を着実に推進するとともに、建設投資の適正化や経営の合理化・効率化等の行動計画及び経営の見通しを盛り込んだ、下水道事業中長期経営計画に基づき、より一層の経営の健全化に努めて参ります。

※ なお、中央コミュニティセンター2階、市政情報室で資料の閲覧が可能ですのでご利用ください。